

タウンミーティング議事録

1 日時

令和6年12月21日（土）午前10時00分から11時30分まで

2 場所

向小金福祉会館

3 出席者

（1）特別職等

井崎市長、石原副市長、吉田教育長

（2）部局長等

須郷総合政策部長、吉野市民生活部長、伊原健康福祉部長、
竹中子ども家庭部長、伊原環境部長、梶まちづくり推進部長
染谷土木部長、南学校教育部長、石川生涯学習部長

（3）事務局

司会 影山秘書広報課長
秘書広報課職員

4 来場者数

20名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

私からは、障害者の立場から、皆様にお願ひがありまして、これはもう5年前から言っていますけれども、今年から障害者に対しての合理的配慮が努力義務から義務になりましたので、あえて申し上げます。

私たち、感謝しているのは、流山市には、障害者に対する障害者タクシーチケット、これを無料でいただいております、感謝申し上げます。当初のスタートというのは、我々障害者はできるだけ外に出るような形でスタートしたというふうに受け止めています。その点については、どんどん向上していると思います。新型コロナのときについても、倍増の枚数をいただきました感謝申し上げます。

ここで1つの問題点っていうのは、2024年問題で、タクシー業界についてもいろんな人員確保、これは市役所の職員もそうです。民間の会社にも言えることですが、人材確保のためにタクシー業者については、新たに迎車代について追加になりまして、2年前は、スタートが300円。去年の11月で一気に増えて400円です。せっかく流山市は、障害者に対するタクシーチケットをいただいても、中身の価格は、今までは720円まではいいんですけども、迎車代を、本人の持ち出しという形になっております。これだと、幾ら枚数を増やしても、1回に使う価格が高いため、だんだん、タクシーを利用する人が少なくなるのが現状です。千葉愛友会記念病院、私は、つつじの会の会長で透析の会の代表をしております。その会に意見を聞いたら、増えてもいいけれども、価格が高いためから利用を控えようかなというのが大半でした。今回の議会では、透析患者からもこうこうやりましたということで、どこの内容を聞いて発言されたのか私は理解できません。この件を何とかしてもらいたいと思います。

私の案としては、障害者チケットの四角いチケットの中に、新たに切り取り線によって、迎車用というのを追加すれば、現金を払わなくてそれを切って渡せる、あとは紙が今まで通りという提案がありますので、それを皆さんの方で、考えていただきたいということが1点。

あとは、お願ひがあつて、タウンミーティングやる場合については、今の時間をできたら、人は今日は少ないんですけど、年々多くなっているのと、とりあえず、今度は30分増やして、2時間スタイルでやったらどうかなということと、あと発言者をあてる場合については、最初に手を挙げた人に札を何枚か配って、順番もわかりますし、観測もできます。

あとは挨拶。知らない方もいますが、張り紙がありますので、それで簡略化できると思います。少しでも時間を、市民の生の声を届けるような形で、届けてもらいたいと思います。

最後に1点、これが重要です。新しく教育長初め、教育担当にはいつもお話をさせていただいております。本当にありがとうございました。

千葉県の教育長の方に手紙を出しました。教育行政において、先生の成り手不足があるんです。全体的に不足と。千葉県は、去年に比べて今年は改善したんですけども、母になるなら流山ということで、流山はかなり人がきているので、東葛地区では、流山が先生の数が一番少ないです。これはご存じだと思います。あの手この手を一生懸命やっているけどやる人は来ないと。何でこないかと聞いたら、会計年度までが必要なのに、やりたい人は、会計年度途中じゃないといけない人が多いんですよ。だからそれを解消するにはいい手が一点あります。流山市の教育関係の行政の職員の中に、現役の先生が30人いらっしゃいます。できたら、その期間は、現役の先生を、そのときに臨時で充てる。そういう形をやれば、それはできると思います。でも、その先生というのは、そういう実習教育がないと、次に教頭、校長になれないんです。そういうのがありますので、皆さんたちで検討してやって、子供たち第1優先で考えてもらいたい。

あとは不登校、いじめ。これは不登校、いじめというのは、言葉が悪い。これは犯罪です。いかにやっちゃいけないかというよりは、いじめがいかにばからしいかということを、道德教育の時間で進めていただければと思いますのでよろしくお願いします。

A 健康福祉部長

私からお答えさせていただきます。今回のご提案ありがとうございます。そして、障害者の合理的配慮についてもご案内いただきまして、非常にありがたいと思っています。合理的配慮についても私達ももっともっと周知をしていかなければいけないですし、できることの取り組みも必要だっていう認識でいます。

そして、タクシー券のことなんですけれども、今日のご提案ありがとうございます。切り取り線を入れてということのご提案をいただきました。

直ちにお答えすることは、今日の段階では難しいんですが、迎車代の導入がされたときに、近隣市の状況などを聞いた上で、まずこれまで、外出機会

の確保と促進ということで、距離を保障するという考え方をその当時していて、現時点はそれを運用しております。

いろいろ状況が変わってくる中で、全く検討を要していないという認識ではありませんので、また引き続き、お声を聞きながらそれから具体的ご提案も持ち帰りまして、今後についてはいろいろ考えていかなければいけないと思っています。

Q 市民

ありがとうございます。早急に、我々は後がないので、先送りではなくて、前倒しで検討してください。

A 健康福祉部長

はい。ご意向非常によくわかります。ありがとうございます。

A 教育長

いろいろとご意見いただきまして、ありがとうございます。

まず教員不足について、おっしゃる通り、流山市だけでなく千葉県全域で教員不足というのが発生しております。特に流山は人口が増えていて、子供たちも増えているので、その教員不足を何とかして欲しいということで、毎年、要望活動も行っておりますし、つい先日、直接、熊谷知事のところに行って、教員不足解消に向けて、何とか手を打って欲しいということをお願いしていきたくらうございます。気持ちは一緒なので、ぜひ今後も教員不足解消に向けて、何らかの手立てを打っていきたくらう考えております。

話題として出たのは、千葉県内で、例えば郡部の方、房総半島の下の方とか、統廃合が進んでいる学校もあるんです。そういうところから教員を学級が増えているところに、配置できないのかというような、具体的な要望も出しておりますので、今千葉県内でも、教育委員会の中で検討してもらっているところなんです。

流山が一番、配置が少ないという、教員が少ないというようなことは、まずありません。流山にも十分配慮いただいているところなんですけれども、配慮以上に、うれしい悲鳴で人口が増えているという現状があって、我々も教員不足に向けては、しっかり対応していきたいと考えています。

あと、いじめ、不登校、おっしゃるように、いじめは犯罪、絶対あっては

ならないものだということで、教育委員会としても全面的に取り組んでおりますので、全校でいじめの対策に向けての道德教育は行っているところで

す。
さらに、研究校として、今年度、流山小学校でいじめの道德教育を行って、それを全市にさらに広げようということを行っているところでございます。引き続き、いじめは絶対許さないという覚悟を持って進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

A 総合政策部長

タウンミーティングでの、まず時間の関係でございますけれども、やはり出席者の皆様にたくさんの意見をいただきたいということで考えておりますので、基本的には1時間半というのを目安として考えております。

内容につきましては、簡略化ということでございましたけれども、先ほど申し上げたように、たくさんの意見をいただくような工夫は、今後もしていきたいと思っております。

Q 市民

どうもありがとうございました。健康福祉部長については、今後しっかりお願いしたいと思っております。あと、教育長の方についても、切にお願い申し上げます。

タウンミーティングの件は、まず、2時間で一回やってみたらどうですか。それを私は提案をしたいということですので、その点を、ぜひとも、考慮していただきたい。

最後に、私、自慢じゃないんですけど、小学校中学校高校無遅刻無欠勤皆勤賞でした。私は、学校に行ったのは、勉強あんまり出来ませんでしたけど、とにかく友達を作りました。フレンドリー。とにかく時代はコミュニケーションです。これ、人の命を救います。どんどん学校に行って友達を作ってください。友達は親友と書きますが、僕の親友は、心の友と書きます。本当に相談する友達の最低でも2人を作るように、これは先生たちもそうですけど、私たち親の責任だと私は思います。

Q 市民

3つだけ重要なことを絞ってお話しさせていただきたいと思うんですけれ

ども、ご存じのように、空き家が、流山市は人口が増えているのに、空き家が増えているという、何とも矛盾した面白い現象が起きていますけれども、松ヶ丘でも歩いてみますと、10軒に1軒、空き家なんです。ひどいところは3軒並んで空き家であると、家によっては手入れをしていなくて、植物がもうひどい状態になっていると。これは防犯ですとか、それから最近は動物の被害、そういう部分があるので、1日も早く、何か方策を立てないといけないと思っておりますので、私、生活と健康を守る会に所属しているんですけれども、その中で、明日もあるんですけれども、子供に無料塾で勉強を教えていたりするんです。いつも我々の中では、生涯学習センターでやっていますけれども、どこか安定して使えるところを使いたい。できれば、住宅に近い部分のところを使って、本当は空き家が使えれば、一番いいんですけれども、今のところ、空き家を活かしている、具体的に、見えていないので、これは、早急に何とか考えていただきたいということ。

それともう1つは、給食費が今度20%、来年から上がるというふうに聞いております。各団体の方々ですとか、そういう方々がつい最近、給食費を無償化にという要望も市に出されたはずなんです。知らない方いらっしゃいますか。それ知らないという役所の方はいらっしゃいませんよね。それを出した途端に、不思議なことに急に上げるという回答、発表がありまして、皆さんびっくりしているわけです。この日本で給食費を無償化しよう、流山は子育てにすごい、給食費は、将来的に無料になるんじゃないかと思って、皆さん期待しているんだけれども、蓋を開けたらそういうことでびっくりしていると。これは、議会で決めることじゃないんで、どこかの部署が上げますと決めれば、決まってしまうことなんです。皆さん市役所の方ご存じですよ。誰がそれを決めたんですか。それを知りたい。どういうシステムでそれが決まるんですかと。後程ご回答いただきたい。

それともう一つ、報道にもありました。もう一つの問題、公立幼稚園はすべてなくなるということで、テレビでご覧になった方も多いと思いますけれども、私も市内の公立幼稚園を卒業していますので、いかに公立幼稚園が私立と違って必要なのかといえ、私立ですから、預かる子どもを制限できるんです。例えば、障害があるとか、発達障害があるとかないとか、そういうことによって断ることができる。そうすると何かしら問題がある子どもの行くところがなくなってしまう。そのためにできれば、その辺のことも寛容に受け入れてもらえる幼稚園がやっぱり親御さんたちにとっては必要となるわ

けです。親御さんがずっと見ているわけにはいかないのはわかりますよね。働きに行かなきゃいけない人もいらっしゃるし、そういう点では、公立幼稚園というのは必要不可欠、数が減るのはもう仕方がないとしても、これは必要不可欠なことです。是非とも存続をしていただきたいと。それは議会の方でも要求があったと思いますけども、それらについても実現していただきたいと思います。

A まちづくり推進部長

空き家についてのお答えをさせていただきます。数値的なところですけども、流山市内で、空き家の実態調査を令和4年度に行っております。その際の結果としましては、管理が不全な空き家、そちらにつきまして、346件の状況です。市としましては、現地をもちろん調査しまして、適正に管理をされていないということであれば、所有者の方を調べさせていただいて、そちらの方に協力をお願いするということで、依頼文を出しているところなんですけども、なかなか所有者が見つからない、そういう場合もありますので、その際にも、いろいろな方法で、その所有者の方を確認させていただいて対応しているのが実情です。

その件について、あくまでも空き家でも個人の方が所有されているので、こちらから、こうしてくれ、ああしてくれという意見を言えないので、その管理している家をちゃんと管理してくださいというお願いをしているのが実情になります。

Q 市民

要望として、こういうことに使いたいですという要望はできますよね。持ち主の方に、流山市はこう利用したいので、是非ともご協力くださいということは言えますよね。

A まちづくり推進部長

言うことは可能だと思います。

A 教育長

給食費の値上げについてと公立幼稚園の廃園問題について、私から回答させていただきますと思います。

まず、給食費、今回20%上げさせていただくという提案を、来年1月に全保護者にお知らせするところではあるんですが、先立って、議会ですとか関係者の方々に、いろいろと影響が大きいということでご説明してきた次第でございます。

そのような最中、給食費無償化というご要望をいただいているというのは、確かな事実でございます。どういうシステムで、値上げが決まったのかということについては、所管である教育委員会の決定で決めさせていただいております。誰の判断かと言われれば、教育長である私の判断ということになると思います。このタイミングでなぜ20%上げるのかと、物価高で苦しんでいる中だという声は非常に多く、聞かれております。ただ、給食費について、一番の目的は、安全で安心な給食、栄養価が高いものを、子どもたちに食べていただきたいということが理念としてございます。そのような中、給食食材についても、物価高の煽りを受けて、この10年ぐらいずっと価格は据え置きで、平成27年から据え置きでやってきた結果、千葉県内においても、流山市の給食費というのは、千葉県内、54市町村ある中で、48番目と、かなり下位の方まで、要は全体から見たら、かなり安い水準で抑えられているという現状がございます。

そろそろ耐えられなくなってきたということもあり、今回、値上げをさせていただくという運びになりました。これまでの10年間、多少の物価高には、市の財源を補正予算や予備費なども充てて、何とかやりくりしてきたところではあるんですけれども、それ以上の物価高がありますので、今回、給食費を値上げさせていただくということで、これは、これから保護者の皆様にも、1人でも多くの方々にご理解をいただく努力は、我々教育委員会としても行っていきたいと考えております。

もう1点の公立幼稚園存続を要望するという声は、非常に多くの方からもいただいております。ただ、流山市内には、私立幼稚園もございまして、こちらは定員を割れている私立幼稚園も数多くあるということもあり、我々としては公立の幼稚園が廃園になっても、私立の幼稚園で受け入れることは可能だと考えております。

障害があって配慮が必要だというような場合も、私立の幼稚園でも当然受け入れておりますし、受け入れていただいた私立の幼稚園に、市から補助を出すということも、今後行っていくということから、園児の行き先がなくなるということはないのかなと思っております。確かに、流山は子育てで有名

な街となっておりますが、例に出すと、例えば、神奈川県横浜市も子育てで有名な市でございます。人口380万人都市という全国最大都市でございますけれども、公立幼稚園は1園もございません。公立幼稚園があるかないかによって子育てに力を入れている、入れていないということには当てはまらないのかなというふうに我々は考えております。

A 市長

補足させていただきます。今年度、この4月から、流山市は保育園で、障害児、医療的ケア児の方々と、保護者が希望園をリストアップして市に提出しているのですが、障害をお持ちの方の保護者がすべて確認し、そして希望リストを書かれていたわけです。その過程で、自分の子どもの説明をしたその結果、うちでは無理ですと言われるのは、何回も続くと、本当に精神的につらい状況に置かれます。

入園の仕方ということで、要配慮児コンシェルジュを今年の4月から設置しております。また、申し込みの前に相談があれば、空き状況等から入園が見込めるところを探し、入園希望リストの作成をお手伝いするようなことも行っております。

これにより、感謝のお声等もいただいております。今年の3月末の段階は、要配慮児は、二百数十名だったかと思うのですが、10月1日には、6割増え、要因としては、2つあって、今まで他のお子さんが医療的ケア児の場合、保育園には入れないということで諦めていたが、入れるようになったということで、手帳を取得した。もう一つは、要配慮児で手帳をとることにためらいがあったが、今回どこかの保育園に入れるということで、手帳の取得に踏み切った。

それでもなお、その狭間で悩んでいる方はいらっしゃると思いますけれども、この短期間で6割の方が手帳を取得されました。私立幼稚園でも、百数十名のそういった方々を受け入れていただいております。公立幼稚園は1園しかございませんが、そこには十数名の要配慮児がおられます。

流山市の幼稚園と協議して、受け入れ体制、環境を整えて、補助も出していきます。市内のどこに住んでいても、幼稚園に入れる体制を、障害児も医療的ケア児も入れる環境というのを整理しているところですので、そういうことの方が大事であると思い、税金の使い方も有効であると思いますので、もう少々お待ちいただければと思います。

Q 市民

テレビから、市に取材の要求と文書での要求をした際に、流山市に拒否された、返事がないということだったんです。そういうことでは、母になるなら流山という題目に対して、反対をいくようなことなので、もしそのような素晴らしい活動があるなら、それは、しっかりとテレビや報道に言うべきだと思います。何で言わなかったのかなということが、とても疑問に思います。それと、給食費の方ですが、流山市の財政としては、余裕結構ありますよね。ないんですか。あると聞いていますけれども。ぜひとも、この給食費は無償化しているところがあって、流山の給食費は比較的、周りのところよりも低いのであれば、市の財政でドーンと出せるというのはできないのかな、不思議だなというふうに思うんですけれども、どうでしょう。給食費はいくら上がるんですか。

A 市長

家や建物が増え、固定資産税等が順調に増えてはいるのですが、例えば、ご存じだと思うんですが、今年4月には小学校2校、中学校1校の移転、同時に3校オープンしているんです。柏市は、去年1校オープンしているんですが、それだけでも、財政負担は今まで以上にぐっと上がるだろうと思うんですが、流山市の場合は、子どもの数が本当に急激に増えているので、3校同時オープンしたわけです。財政の歳入も増えています。しかし、歳出もどんどん増えております。

だから、お金持ちになるわけではないんですけれども、皆さんの要望に対してどういうふうに答えていくかということも一生懸命にやっているので、ずっと苦しいです。

A 教育長

まず、小学校と中学校でどのくらい給食費が上がるのかということについては小学校で1食当たり50円、中学校で62円です。小学校は現在1食260円で、値上げしても310円です。中学校は308円から370円に上がります。1食当たり50円と62円上がるということになりますので、それなりのご負担を強いることにはなりますけれども、我々としては、すでに生活保護世帯、就学援助を受けられている方々については、相当の配慮（無料）はさせていただいております。

さらに、流山市については、第3子以降のご家庭についても、給食費を無料するというような配慮をさせていただいておりますので、ご理解をいただくよう今後も努めていきたいと考えております。

Q 市民

元教員です。今すごくお金が困っているということでまず1つ、おおたかの森小学校を作るときに、約120億円かけました。普通30億円で作るのに、大反対をしたにもかかわらず、そのしわ寄せが、今の子供たちに来ているんです。南流山第二小学校は、南流山中学校の古い校舎を使ったからいいけど、その計画性のなさというのは、かなり問題だと思います。

2つあります。1つ、去年流山の私の孫が行っている学校は、学校崩壊が起こりまして、教員が3人も4人も足りないんです。それで、小学校行くとみんなわーって先生がいないので、緊急に入れるお願いをして、今年は教員が充足しました。でも、今度見てみますと、うちの孫の学校は学級崩壊で、これはもうどうしようもないんです。流山市は不登校が400人います。400人というのは1つ学校作った方が早いです。建物をつくればいいんじゃないくて、教育内容の充実というのは極めて重要な問題で、それは人的支援です。できるだけ子供たちに丁寧な指導ができるような人材を作るということで、不登校のことで、ぜひお願いしたいんですが、不登校は文科省の指導によって、居場所を学校内外に作る。外の方は、フリースクールです。これも非常に不足しています。ですから、さっきありました、空き家の利用とか、フリースクールのお母さん方にどんどん推進をして、市が中に入らないとできないことです。文科省は学校の中に不登校の子がいつでも来れる場所、居場所をつくるということで、一応場所は作っています。

ただし、流山の場合は、不登校の子が来たときの専門のスタッフがいらないんです。私は全部調べましたので、この東葛管内。我孫子市は、すでに小中作っていて、柏市は中学は作っていて、松戸市は、人材派遣の協議の中から充てるということを、鎌ヶ谷市は、県の不登校対策として専門になっていますので、中学校はついています。流山は、現在の不登校の子が学校に来ても、学校の中に施設はあるけど、そこに来る専門の先生がいらないから、空き時間の先生が来るんです。空き時間の先生というのは、自分の学級のこともありますから、そこには専門はできません。ですから、スクールアシスタントでもいいですから、これは教育者でなくていいということで、是非ともそ

の子どもが来たときに、親身に面倒を見るスタッフを用意していただきたいんです。それで、私ははっきり言いますけど、ボランティアに行きましたが、元民生委員で、小学校の先生だった人がいるけど、本当に不必要なスタッフもいます。何でいるのかわからない、やっぱり、教育の現場に入るときは、この子たちにこうやりたいという情熱をもって、不登校の子をやりたい、手のかかるお子さんをやりたいとか、そういう人をちゃんと配置して欲しいんです。それで1つだけよかったことは、うちの学校の場合は、去年交通指導員がいなくて、先生が毎日でていたが、今回はそのスタッフの中から、もう毎日、やってくれる人を作りました。要するにアシスタントの中から、学校の交通指導を、そうすると、先生が立たなくて済みます。今は、昔の緑のお母さんのような役割をする、特に責任感のある方で、先生方が助かっているし、事実上、学校崩壊というのとはなくなってきたんです。

だから、こういうスタッフを集めるときは、アルバイトというか主婦のなんかこう失業対策じゃないんです。やっぱり、その学校現場にきちっとした人を配置するというのがまず第1点やっていただきたいと。

公立の幼稚園の先生というのは、障害児の専門スタッフがいるんです。お母さんはそこで頑張っているんです。専門スタッフというのは、教員もそうですけど、一日ではならないんです。それなりのキャリアの人間がいるから、お母さんたちは、その障害の子どもに通わせたいという、そこを潰すという、全体的な計算はいいですよ。教育は、計算じゃないんです、人間相手なんです。

A 教育長

不登校の専門スタッフについて配置すべきではないかというご質問でよろしいでしょうか。他市の状況までお調べいただいております。

我孫子、柏、松戸、鎌ヶ谷の状況を調べていただいたかと思うんですけれども、これらの自治体については、すでに不登校の支援が県の加配としてついているかと思えます。流山も、同じようについております。

さらに、これらの市とは別に、流山の場合は、さらに学習サポート教員というのを配置してまして、これは市の財源で、さらにプラスして、教員をつけております。ですので、不登校対策については、流山市も積極的に行っているところであります。さらに、国が今度補助を出して、あと県が補助を出す、不登校対策についても、流山市として手を挙げておりますので、今後

も約400人不登校の子どもたちがいるということで、その対策を全面的にやっていくところでございます。

現在も学習サポート指導員というのを市の独自予算で配置しているんです。独自予算で配置していて、各学校の状況によって不登校対策にも充てておりますし、教員のサポートにも充てているという状況なので、不登校の子どもたちというのは、各学校の状況によって様々あるかと思いますので、各状況によって、学校判断で必要なところに必要な教員を配置しているところです。学級崩壊が起こらないように、我々の方もしっかりと人員配置しております。

A 学校教育部長

少し補足させていただきます。ご意見いただいたスクールアシスタントを、それに充てるというアイディアなんですけど、これ大変素晴らしいアイディアだと思います。東小学校の交通指導員の件もありますので、スクールアシスタントの学校の基本的な使い方というのは、それぞれの学校によって決めているところなので、我々の方でも学校と相談しながら今のアイディアを紹介させていただきますので、ありがとうございます。

加えて空き時間の先生の対応について、空き時間に、ほぼ不登校の対策室に先生が入るんです。つまり、教科を持っている先生方はその空き時間、自分の空き時間をそっちに充てていて、学校の中はほとんどその時間割が組んであって、不登校対策室には、全体での授業は受けられないにしてもそういった個別授業を受けられる体制も全部できている状況なんです。

なので、空き時間の先生もすべて、全体の学校体制として、不登校の子たちに対応しているケースもあるので。鎌ヶ谷市と同じ状況だと思います。

Q 市民

去年、子育てに強いというところがあって、流山市に実際越してきたんですけども、やっぱりメインどころは、おおたかの森がすごい発展しているイメージで、皆さん今、小学校のところとか幼稚園のところ教育費のところ、あと給食費のところ、すごい言ってくださってありがたいんですけど、4ヶ月前に赤ちゃんを産んだものですので、どうしてもその幼稚園の手前、ベビーちゃんのところ赤ちゃんのところに対して、東部地域は、まだまだかなと思っていて、1つが子供の支援センター、2つ目が商業施設についてな

んですけど、1つ目の子供の支援センターというのは、0歳の赤ちゃんを産んだあとに、ママたちが産後鬱とかになりやすい状況なので、無料で保育士のスタッフの方と一緒にちょっとしゃべったりとか赤ちゃんの面倒見たりとか、そういったところを、今流山市何個か設置してくださっているんですが、名都借だったり、松ヶ丘だったりとか、東部地域のところが、前までは2つぐらいあったと聞いたんですが、今廃止になってしまったっていうところで、私は車で10分15分かかって、おおたかの森まで行って、いつも支援センターでこの子と遊んだりしています。

商業施設に関しても、赤ちゃんの授乳室とかすごい綺麗なおおたかの森SCとか、私すごい利用させていただいているんですが、どうしても名都借は、まだスーパーも少ないというところで、ちょっとオムツ買いたいとかあったとき一旦家に帰らないといけないとか、子ども支援センターの部分とスーパーのイオンとか、SCばりに高級なものが立ってなくてもいいんですけど、先ほどまちづくりのお話、空き家の話あったと思うので要望はやっぱり伝えにくいと思うんですが、空き家も、もし何か使うっていうところの話も進んだら商業施設だったり、その支援センターで休憩室、もうちょっと幼稚園より手前の赤ちゃん向けのところも、子育てっていうところも入ってくると思うので、ぜひそのあたりもご検討いただけたら嬉しいなと思っています。

Q 市民

0歳から2歳までの子どもの保育園料についてなんですけれども、今都内とかでは無償化になっている中で、まだそれが進んでいないという状況だと、今、0歳から2歳の子どもがいる世帯だと、育休延ばそうみたいな話が周りでも結構聞く話になっていまして、そこに、何かこう対策が打たれていくと、この2歳まででも、すぐに働きたい、育休からあけたいという方がまた増えてくるんじゃないかなと思っています、その方針みたいなのがあれば、お聞かせいただければと思います。

A 子ども家庭部長

私から2点、子育て支援センターの件と保育料の件ですけれども、まず、保育園に併設している、地域子育て支援センターというものが11園ありまして、その他、児童センターの中でも午前中までは、そういった広場とかを

やっているんですけれども、確かにこれまでそういった気軽に交流ができたり、相談ができるようなところがなかったというものがありませんでしたので、今年度、2箇所、1ヶ所は、江戸川台駅のすぐ近くに地域子育て支援拠点「てるてる」というものを開設しました。さらに、東部地域に新たに作ろうということで、今事業者の公募を行っていて、今年度内に開設する方向で調整を進めておりますので、もう少々お持ちいただければというふうに思います。

保育料については、0歳から2歳のところですけども、市として市川市さんとか、そういったところは確かに無償化をやっているところもあります。

東京都内では、実質負担がなくなると言うんですけども、そういった幼児教育保育の無償化に関しても、国全体でもどうしていくかという財源も含めて、今検討しているという状況にあります。そういったところを見ながら、市として今後どういうふうに対応していくかというのを考えていきたいと思っております。

Q 市民

いつもお疲れ様です。ご答弁、苦しい場面も多かったようですので、1つ目は夢の話をしたいと思います。過去のタウンミーティングの話で、甲子園に出られる野球部を作ったらどうかなという話をしまして、実現はしないんですけども、今日の夢のある話というのは、流山産品を作ったらどうかというご提案をしたいんです。

流山何とかというのを、学校の栄養士さんとか、或いは職員の方とか意見を募って、流山何とかと打ち出せばどうか、宇都宮では餃子、佐野ならラーメンとか、そういうのがあるんで、流山産品を計画されたらなと思っております。白みりんも単独では産品にはならないので、何か検討していただければと思います。

それともう1点は、2020年3月8日の読売新聞の朝刊ですが、東電の賠償請求が0.2%台、2,200万円が5万3,000円になったという記事今日お持ちしましたので、市長さんが怒り心頭になって、損害賠償を検討しているというコメントをされていると、これの経過と現状を伺えればと思います。それと、BSTBSの方で、私も今日質問しようと思ったんですけども、なぜ、公の放送で、コメント或いは部長の回答ぐらいすべきじゃなかったのかなと今思っておる次第でございます。

もう1点。給食の問題がありましたけども、参考になると思います。私は
昨年12月に柏にある大学病院に手術のために入院しました。食事の費用
というのは、何と3食で1,380円でありました。食べていたものは、重
湯と汁です。そんなような現状がありますので、給食費の値上げについて賛
成するわけじゃないんですけれども、やむをえないのかなと思っている次第
でございます。

A 市長

流山の産品についてお答えします。いろいろな嗜好があるので、1点で済
むということはないと思うのですが、流山で起業し流山のブランドになっ
た、レタンプリュスというお菓子屋さんがあり、チョコレートはゴディバよ
り高く都心部でも販売している。そのほか、流山らしいお土産にしたい、古
式みりんという昔ながらの作り方でいつも予約いっぱい販売されてい
て、最近では、若い方、「まちみん」という団体が白みりと北海道の生ク
リームを使ったキャラメルを作っています。高級な贈答品用のキャラメルを
作り出していて、いろいろな方が努力され商品化されている。新しく引っ越
してきて、新しい商品を開発したりしている。広報でお知らせして、広報で
難しければ、私のFacebookやXで紹介したいと思います。

A 環境部長

東電との交渉についてお答えいたします。東電に対しては、平成23年度
から令和2年度分までの放射能対策に関わる経費を請求してまいりました。
支払いされなかったものについて、ADRに過去3回ほどあっせん申し立て
しております。1回目が最初の3年間、2回目が次の3年間、3回目が残
り4年間、全部終わったところでございます。

その中で、どうしても払ってもらえないのが時間内人件費で、10年間で
1億4,700万円かかっているんですけども、払ってもらえていないところ
です。

先月、東京電力の担当を呼びまして、時間内人件費について、何とかなら
ないのか、交渉をさせてもらっていますけども、そこはやはりなかなか払っ
てもらえない。これからも、時間内人件費については支払いしていただきた
いと思っていますので、粘り強くやっていきたいというところが、現在の状
況になっております。

A 市長

近隣市も同じ被害があったんですけれども、当然、東電と争っているのですが、流山市は最後まで諦めずに戦っていこうと思っています。

Q 市民

損害賠償のための提訴はしないんですか。

A 環境部長

A D Rに、3回あっせん申し立てしたということをお話しましたが、A D Rは東電と私たちの間に入ってくれる裁判所みたいなところですよ。そこでやっております。その結果、時間内人件費を払っていただけない、そういったことになっております。

Q 市民

小学校のP T A会長をしまして、その観点も踏まえて2点お願いがあって、先ほど話が合った情報発信についてです。P T Aやっているんですが、最近は、ネガティブのイメージで、中で何やっているかわからないとか、そこでいい事もやっていて、それを発信できていなかったりとか、やり方が悪かったりというところが課題だったんで、そこで、プロセスを明確にしていったりとか、意思決定するときも保護者の方の意見を聞いてみてやったりとか、あと、メディアの方に見に来てもらって積極的に発信すると、N H Kとかいろいろ取り上げていただいていますけれども、そういうことをやっています。

流山市の場合も、これだけ話を聞くと、やっぱりすごくいいことをしているし、しかもしっかり根拠を持って、取り組んでいると思うんですけども、その根拠の部分の発信がいまいちできていなかったりとか、そこが伝わってなかったりで、逆に誤解を与えているのかなと思っていて、さっき、給食費の話も、保護者としては全然知らなくて、ただ、いろいろ考える中で選択肢もある中で、決定されていると思うんですけども、その辺を明確にしていく、そこを発信していただくことで、多分誤解も解けるのかなと思っていて、そこはぜひ発信の仕方とか、例えばメディアをどう活用するかとかそういうのはうまく検討していただきたいなと思っています。

もう1点が今年度から流山市の全学校でコミュニティスクールが導入され

ていると思うんですけれども、そこで中に入っているコーディネーターの役割が非常に大事であると、学校と地域と保護者をつなぐというところの役割を果たしていたんですけれども、今度は、学校と地域と保護者で、要は学校をどう運営していくかというところと、これまたフェーズが変わってくると思うんです。変わってくる中で、今のコーディネーターも、要は活動時間の上限が設けられているとか、その中で十分な活動ができるかっていうところは、精査が必要なのかなと思っています。ここの向小金地域に関しましては、コーディネーターの不在期間が今も続いているという話を聞いていて、それこそ、このコーディネーターをどう人選していくかとか、基本的に地域から、選んでいる形だと思うんですけれども、そういう形を継続していくのかとか、僕も要件をちょっと絞っていくとか、いろいろと検討していつて、本当にその制度としてうまく回っていくような形、それこそ教職員になるべくいいの中で、地域と保護者とこううまく巻き込んでというところ、結局仕組みづくりという話だと思うので、そこは地域にこだわるかなというところがあるので、役割分担とか明確にした上で、進めていただきたいなと思います。

A 教育長

ご意見ありがとうございます。いろいろ活動しているのに、その根拠の部分だとか情報発信が乏しいんじゃないのかというのは、まさにおっしゃる通りの部分ありますので我々として改善していきたいと思います。

特に給食費については、実は公表は1月の予定なんです。公表は、1月の予定なのに、皆さん随分詳しいなと思って今日聞いてはいるんですけれども、事前にいろいろと関係者に、事前の説明をしていかないと急に教育委員会が公表ということになると、まだ聞いていないぞという批判を浴びかねないので、関係各所の方々にいろいろと説明をしていたところで、まさに年内それをやっているところなんです。ある程度、関係者が把握をしたところで1月に、保護者の方々に情報を発信しようと考えておりました。情報の発信の仕方については、丁寧に行っていきたいと思いますし、スキットメール1回だけではなく、ホームページとかにおいても、公表していきたいと思いますし、なぜこのタイミングで値上げなのか、なぜこの金額なのか、今の給食費の実態はどうかっていうことも踏まえて、保護者の方々にも情報発信していきたいと思いますので、また何かございましたら、ご意見いただける

と助かります。ありがとうございます。

A 学校教育部長

ご意見ありがとうございます。今の補足なんですけれど、情報発信については、我々もやはりいろいろと考えるところもありますので、ご意見、本当にありがとうございます。我々もできるだけ多くのものを使って、上手にやっていきたいというふうに考えております。今年から教育長のInstagramをスタートしました。例えば柏市のように、学校関係の情報を市の公式LINEで流しているところもありますので、我々もそういったところを使っていけたらなというふうに考えているところです。

それと、コミュニティスクールの件ですけれども、やっぱり制度については、随時見直しが必要だというふうに考えております。ただ、その地域の方々も含めて学校の子どもたちのために、いい形を作りたいというところが発想の根本ですので、先ほどの様々な時間制限等も含めてですけども、これから、制度についてはよりよい方向に行けるように、向かっていきたいなというふうに思っておりますので今後ともご意見いただければと思います。本日もありがとうございます。

Q 市民

教育問題でお伺いしたいんですけど、先ほど何か先生が不足していると、不登校の問題と聞いたんですけど、例えば、AIを順々に導入してみたらどうでしょうかというのがまず第1点、AIが先生の代わりみたいなようにして、もう1点は、不登校問題は、例えば、メタバースを利用しては、GIGAスクールみたいなのを作ってみたらどうでしょうか。もう学校来なくてもいいから、学校で出席扱いにして、その代わり、ちゃんと勉強だけが続けてくださいね、みたいなようにしてはいかがでしょうか。よろしくお願いします。

A 教育長

ありがとうございます。AI事業とあと不登校対策にメタバースを用いたらどうかということについて、おっしゃる通りで、一斉授業であるとか、AIだとか、動画配信だとかできることがあるんじゃないのかというのがあるんですけども、1点今の学習指導要領というところで教員免許を持ってい

る人が授業をするというのが、国の方にありまして、そこが1つ壁としてはあります。

ただ文科省も少し柔軟になってきているので、できることはあるのかなとは思いますが、すぐにそのAIで何かということは、難しいというのが現状としてありますが、発想としては、我々も考えたことがありますので、例えば授業の補完として、授業に出られなかったときは、映像授業を見てもらうとか、そういったことは必要なのかなと思いますので、今後の教育にも取り組んでいきたいと思います。ありがとうございます。

もう1点の不登校対策のメタバースは、まさにモデル的に不登校対策として、学校に通えない、あとフレンドステーションという、学校でない居場所づくりというのも、不登校対策に作っておりますが、その家から出られない子についても家から授業を受けられるような、そのメタバースオンライン空間の学校というのを、試験的に行おうと思っており、今導入しているところです。評判がよければ、来年度再来年度と今後も発展していきたいと思えますし、県とも連携して、千葉県はそこに先生をつけて映像授業というのを行っているのです、そこで、オンライン上で授業を受けるということもできますし、あとは個別の相談だとかということも受けることができるし、NHK放送スクールだとか、いろんなYouTube番組とか、授業的なものを見るということもできるということで不登校対策を多面的に対策しているところでございます。

Q 市民

先ほど話題に上がりましたが、流山市は、子育ての街として全国的にも、自分の周りにも、若い夫婦、小さい子供がたくさん住んでいらっしゃいます。ですが、若い世代が増えたからといって、ご高齢の方が減ったというわけじゃなくて、ご高齢の方もたくさん住んでいらっしゃいます。特にこの東部地区というのは、おおたかの森などと比べて、ご高齢の方が比較的多いなと自分の中では思っていて、子育てを中心としたまちづくり、これは非常に大切ですが、ご高齢の方が住み続けられる、住みやすい、そういうまちづくりも大切だと思いますので、市として、ご高齢の方が暮らしやすい、住みやすい、生活しやすい取り組みとしているようなことを考えていらっしゃるのか、お聞かせ願いたいです。

A 市長

具体的事例があれば担当からお答えしますが、流山市は共働き世代が仕事しながら子育てしたい方々に選んでもらえる街として進めてきましたが、これまでも、団塊の世代がずっと流山市を引っ張ってきて、1番がんばって、そういう方が、これから福祉や医療、介護、そういった想定外の問題、さらにニーズが増えてくる。ここについては、子どもだけじゃなく、高齢者施設にも充てていて、特別養護老人ホームの待機もゼロにしているところです。流山で最後まで安心して暮らしていける。具体的にいくつかご紹介したいと思います。

A 健康福祉部長

おっしゃってくださっている通り、高齢者人口もちろん増加しております。高齢化率というのは若い世代の転入があるので、端的に上がっていないだけで、実際高齢者は多くいらっしゃる。そしてその方々は私達にとってとても大事な方々です。

そして市の施策としては、今の第9期の高齢者支援計画というのがあります。歴代、高齢者支援計画を作ってきているんですけども、その中で介護が必要になったときの介護保険の制度、安定運用として先ほど市長が申した、計画的に施設整備などをうたっているのと、あとは高齢となっても住み慣れた地域で、できればご自分の家でいきいきと暮らし続けることが、非常に大事なので、例えばなんですけど、高齢者のふれあいの家という取り組みがあって、そこで高齢者さんが集って体操したり趣味をやったりというふうに取り組んでいたり、あとはながいき100歳体操というんですけれども、集団で、小グループでおもりを使った運動に取り組んで、筋力の低下を予防したり、そこでミニ講座を受けたりというものもあります。

これから、ご高齢となっても、皆さんがいきいき活動し続けられるという取り組みをもっともっとやっていかなければいけないでしょうし、認知症の啓発だとか、それから、安心して暮らせるための取り組みも非常に大事です。やっている取り組みを、もっと皆様方に手に取りやすく分かるように発信するという工夫がさらに必要となっているかなというのをご質問を受けて、実感しました。貴重なご意見本当にありがとうございます。

Q 市民

先ほど質問にあがったテレビからの取材を断った理由について、お答えがないのですが。

A 学校教育部長

今回、取材などをお断りしたのは、報道が、一部偏っていたり、切り取られてしまうということが懸念されることから、お断りさせていただいたところなんですが、すべてを一斉に断るということではないので、先ほどの皆さんのご意見もある通り我々としては随時、判断をしながらやっていきますので、今後もそういったことで、随時対応していきたいと考えております。

以上